

大会名 第五十九回東海学生弓道新人戦

石松 愛理

今年度の東海学生弓道女子新人戦は十二月三日に日本ガイシスポーツプラザ弓道場で行われました。女子団体はAチームのみ予選通過しましたが、決勝トーナメント一回戦敗退という結果でした。女子個人は予選通過者が一名で、個人の入賞者はいませんでした。

この新人戦は幹部が六十六代に交代してから初めての公式戦であり、六十七代のなかには初めての試合である人も多くいました。私自身もその一人で、今までいくつかの試合の応援や仕事に参加したことはあったけれど、やはり自分が出場するとなるとより今までとは違った緊張感がありました。

私は、初めての経験ということもあるので、この試合にあまり考えすぎずに今までの練習通りに引こうという思いで臨みました。予選のときは前に先輩方、後ろに同代が立っていたので、普段とあまり変わらない気がして、緊張せずに引くことが出来ました。一本目、二本目と矢が的に当たったときは正直、自分でも驚きました。試合前の練習でもそれほど中することは出来ず、弓道に対しての自信はほとんどなかったのですが、この試合で三中全会して予選通過することができ、少しだけ自信がもてるようになりました。決勝では、予選のときとは比べものにならないくらい緊張し、自分でも納得できない射となってしまいました。しかし、私にとつてとても良い経験ができたと感じています。また、試合前の先輩方や同代の応援がとても温かく頑張ろうと思わせてくれるもので今でも印象に残っています。

いつかは、団体のメンバーに選ばれるようになりたいと思っていますが、団体戦となると自分の中がチームに影響するため、

緊張感や当てないといけないという思いは必ず強くなるだろうと思います。そのようなことにも耐えられて、自分の実力を発揮できるように精神力を高めていきたいです。そして、実力も今はまだまだで弓道に関する知識も不足していると思うので、これからの練習でもっと自分の射と向き合ったり上手な人の射から学んだりして力をつけていきたいと思っています。